

平成17年 11月1日	農作物病虫害発生予報 11月	山口県病虫害防除所 山口県農業試験場
----------------	---------------------------------	-----------------------

～目次～

予報の概要	1
予報		
【主要病虫害】	2
【その他の病虫害】	5
病虫害・農薬情報		
循環型農業メモ	水田の秋期耕耘による耕種的防除	.. 6
病虫害メモ	カンキツ貯蔵病害の防除	.. 6
参考	7

予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
ハクサイ	軟腐病	やや少	少	少
	べと病	平年並	平年並	多
キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	前年並
アブラナ科野菜	コナガ	やや少	やや少	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	少
	オオタバコガ	やや多	やや多	前年並

作物	担当者
普通作	野崎(病害) 山本(虫害)
果樹	村本(病害) 殿河内(虫害)
野菜	岡田(病害) 岩本(虫害)
茶	岩本(病虫害)

お問い合わせ先
TEL (083) 927-4006
FAX (083) 927-4071

予報

【主要病害虫】

ハクサイ

1 軟腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年25.8%)、発病株率0%(平年2.7%)で平年に比べ少なかった(-)。

イ 気象予報では、11月の降水量は平年並みである(±)。

(3) 防除対策

< 耕種的防除等 >

ア 排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

イ 発病株は取り除き、ほ場外で処分する。

< 防除のポイント >

ア 多発生を認めた場合、発病株を取り除いた後、早急に防除を実施する。

イ 病原細菌は、風雨に伴う傷口や害虫による食害痕から侵入するため、強風後の防除と害虫の防除を徹底する。

2 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は45.5%(平年61.0%)、被害株率は24.7%(平年30.8%)、発病度は6.2(平年9.0)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並みか高い(±~+)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 発生している場合は、治療効果の高いフェニルアמיד系薬剤（リドミルM Z剤、クリーンヒッター剤等）が有効である。

イ 耐性菌が出現しやすいフェニルアמיד系薬剤、有機リン系薬剤（アリジマン剤）、メトキシアクリレート系薬剤（ストロビー剤、アミスター剤）は、作付け期間中各1回程度の使用にとどめ、他剤との体系防除を実施する。同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。

キャベツ

1 黒腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は16.7%（平年20.4%）、発病株率1.0%（平年3.0%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、11月の降水量は平年並みである（±）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<防除のポイント>

ア 発生後の防除では効果が劣るので、予防散布に努める。本病に弱い品種や、昨年多発生したほ場では、特に防除を徹底する。

イ 病原細菌は、風雨に伴う傷口や害虫による食害痕から侵入するため、強風後の防除と害虫の防除を徹底する。

アブラナ科野菜

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は0%（平年10.2%）、10株当たり虫数は0頭（平年0.4頭）で平年に比べやや少なかった。キャベツでの発生ほ場率は25.0%（平年26.8%）、寄生株率は0.3%（平年1.6%）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 山口農試内のフェロモントラップにおける10月の誘殺数は、平年に比べ少なかった（-）。

(3) 防除対策

ア 昨年の薬剤抵抗性検定において、有機リン系薬剤、ピレスロイド系薬剤、IGR系薬剤のコナガに対する効果は低い場合があり、BT剤やスピノエース顆粒水和剤、アフーム乳剤では高い効果が得られた。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は36.4%（平年13.5%）、寄生株率は1.1%（平年0.7%）で平年に比べやや少なかった。キャベツでの発生ほ場率は50.0%（平年43.0%）、寄生株率は5.2%（平年2.5%）で平年よりやや多かった（+）。

イ 県内のフェロモントラップ（6か所）における9月5半旬～10月4半旬の誘殺数は地域によってばらつきがあるが、全体的に平年に比べやや多かった（+）。

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みである（+）。

(3) 防除対策

< 耕種的防除等 >

ア 地域により発生量にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉を見つけ次第捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

< 防除判断 >

定期的にはほ場を観察し、若齢幼虫が見られる場合は直ちに防除する。

<防除のポイント>

- ア 中～老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。
- イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

- ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は0%(平年2.3%)、寄生株率は0%(平年0.04%)で前年並みであった。キャベツでの発生ほ場率33.3%(平年12.9%)、寄生株率1.2%(平年0.7%)で平年に比べやや多かった(+)
- イ 山口農試内のフェロモントラップにおける10月の誘殺数は、平年に比べやや多かった(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第、捕殺する。

<防除のポイント>

- ア 中～老齢幼虫はハクサイやキャベツの結球部に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。
- イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予 想 発 生 量	現 況		発生ほ場率		備 考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
キャベツ	菌核病	平年並	平年並	前年並	0	0	排水対策を徹底し、発病株はほ場から除去する。
アブラナ科野菜	ウワバ類 (キャベツ)	やや多	多	多	42	20	
野菜全般	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多	多	-	-	山口市のフェロモントラップによる10月の誘殺数は平年に比べやや多かった。

病害虫・農薬情報

循環型農業メモ

水田の秋期耕耘による耕種的防除

収穫後早めに水田を耕耘することは、稲わらの腐熟を促進するばかりではなく、雑草や病害虫の防除に効果があります。雑草では防除の難しいオモダカやクログワイ、病害虫では紋枯病などの菌核をつくる病害やツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ、ニカメイチュウ、スクミリンゴガイなどの越冬量を少なくすることができます。

稲わらの腐熟を促進させるには浅く耕耘することで効果が上がり、オモダカやクログワイはプラウ耕による反転でより効果をあげることができます。また、スクミリンゴガイでは浅くロータリーの回転を早くして耕耘すると貝に損傷を多く与えることで効果が上がります。一方、紋枯病などの菌核をつくる病害では浅く耕耘した場合翌年代かき時に再び菌核が上に浮かんでくるので、プラウ耕による反転で表層の菌核を土中に深く埋め込むことで効果が上がります。このように耕耘の方法によって効果が異なりますので、目的によって耕耘方法を選択することが必要です。

いずれにしても、秋期の耕耘は土づくりの面だけでなく、病害虫や雑草の防除においても様々な点でメリットがありますので、基本的な栽培・防除技術として励行しましょう。

(専門研究員 野崎 匠)

病害虫メモ

カンキツ貯蔵病害の防除

普通ウンシュウやイヨカンなど大部分のカンキツ類は、収穫した後、可食時期となるまで貯蔵庫等で貯蔵をし、その後に出荷します。しかし、貯蔵中には青かび病や緑かび病、軸腐病、黒腐病など様々な病害が発生し、果実を腐敗させます。

貯蔵中に最も普通に発生するのは緑かび病と青かび病で、園内で土ぼこりなどとともに果実に付着した病原菌が、収穫や運搬の時にできた傷などから感染し、果実を腐敗させます。軸腐病は黒点病の病原菌と同一の菌が原因で、果盤(へた)に潜伏していた菌が貯蔵中の果実の生理的消耗とともに活動を始め、2月頃から果実の腐敗が始まります。また、黒腐病は果実の生育期間に果梗部や果皮表面の傷跡などのコルク化した組織に潜伏し、軸腐病と同様、貯蔵後期に発生が増えます。

貯蔵病害の発生を少なくするためには、次のとおり収穫前から出荷するまで様々な注意が必要です。貯蔵庫から出すまで気を抜かずに管理をしましょう。

降雨直後には収穫をしない。

収穫や運搬の作業中に果皮を傷付けない。

適正な在庫量とし、庫内の温度と湿度を適切に保つ。

(ウンシュウミカンは温度3～6、湿度80～85%、イヨカン、せとみは
温度6～8 湿度85～90)

収穫後、直ちに果実の予措を行なう。

(ウンシュウミカン、せとみは3～4%、イヨカンは5～6%)

腐敗果の点検を定期的に行ない、見つけしだい貯蔵庫から取り除く。

収穫前に薬剤防除を行なう。

生育期間中の黒点病の防除を徹底する。

(専門研究員 村本和之)

参考

1 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報(10月28日福岡管区気象台発表)

予報	高い(%) 多い	平年並(%)	低い(%) 少ない
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

週ごとの気温傾向

予報	高い(%)	平年並(%)	低い(%)
1週目	40	40	20
2週目	50	40	10
3～4週目	30	40	30

2 11月のテレホンサービスの内容(予定) TEL(083)927-4649

時期	内容
上旬	11月の発生予報、ハクサイベと病の防除、イチゴの病害虫の防除
中旬	稲わらの秋冬期耕き込みによる耕種的防除、農薬の適正使用
下旬	カンキツ貯蔵病害の防除、農薬の適正使用